

学校教育目標

志をもって、共に学び、よりよく生きる子どもの育成

中期目標

自他の良さや伸びを認め合い、目標に向かって挑み続ける子どもの育成

重点目標

自分で考え、伝えることができる子どもの育成

○学力向上【研究推進委員会】

- ①授業改善 ・公開授業、重点授業（月2回）を位置づけて、お互いに磨き合う場にする。（チェックリスト活用）
- ②学力基盤 ・音読検定・条件作文・言葉スキルアップ
・計算（金曜昼）・ノートコンクール

【評価指標】	単元テスト思考・判断・表現	80%	全国学力テスト	全国 109
	標準学力調査	前年度を上回る	考えを伝える	80%

○生活向上【児童委員会担当】

大和町スタンダード 【評価指標】・あいさつ90% ・返事80% ・はきものそろえ80%
 ルールのある遊び 【評価指標】・学校が楽しい 90%

児童の委員会活動との連携（〔運営・集会〕〔運動〕〔給食・環境〕〔図書〕〔保健〕）

○児童は毎月「自分の目標」をふり返り、評価し、取組を見直し、意欲化を図る。

教育課程編成の方針（編成・実施・評価の重点）

編成） 教科・特別の教科「道徳」・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動での横断的、且つ主体的、対話的、深い学びを通して、思考力、判断力、表現力を育成
 ○国語科を重点教科とし、文学的文章・説明的文章・作文を重点単元として設定
 ○児童会活動では、可能な限り自ら計画した内容で自主的に実施できる活動を推進

実施） ○子どもの実態を把握し教材研究を行い、子どもが自分で考え伝える喜びを実感できる授業作り
 ○児童の委員会活動の充実を図り、自己肯定感の向上、人間関係作りを目指す

評価） 各検査の分析・年間指導計画、行事の振り返り・各アンケート

校内研修

- 1 目指す児童像を明確にして公開授業を行い、授業の質を高める。
 ○「主体的に考えを作る、伝える活動」を適切に位置づけた授業づくり
 ○事前指導・模擬授業の重視
 ○研修の日常化
 ○C層、D層への取組
- 2 学力向上研修を図る。
 ○必要な力の分析、県・市・南教育事務所との連携
- 3 一般研修の充実を図る。
 ○算数、人権・同和教育、特別支援教育、ICT教育、プログラミング教育、外国語教育、生徒指導、不祥事防止等の研修を行う。（時代や社会のニーズ、市の課題に応じた研修）

教育課題

- 主体的な学習、考える力
・表現力の育成、個人差
- 自尊感情・自己肯定感の向上
- 体力面で個人差

経営課題

- 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり
- やる気に満ちた学校の雰囲気づくり
- 人材育成・若年教員の指導力向上
- コミュニティ・スクールの推進

1 言語環境の整備

- 教師自身がモデルとなる言葉遣い
- 体験活動前後の「書く」活動
・キャリアパスポート
・条件作文
- 教室・校内掲示の整備
・話型の活用
・モデルノートを掲示
- 正しい言葉づかい指導（授業中・職員室出入等、公の場面）
- 教室での辞書・図書有効活用
- 読書指導の充実
・読書ボランティアの活用

2 地域人材や資源の開発連携

- 郷土学習の推進
・「素読集」「柳川人物伝」の活用
- 地域教材や人材の活用を図る。
- コミュニティスクールの推進

3 いじめ対応等教育相談の整備

- SV・SCの計画的活用
- アンケート調査と個別面談、結果の共有化と保管
- いじめ防止対策委員会の開催と組織的な対応（初動）

1 校務分掌の機能化

- 重点目標達成に向けた活動の場と時間の確保
- 週案の充実（重点目標達成に向けた手立て・指導記録）

2 指導体制の工夫

- 学習サポート体制
- T T指導＜強化期間＞
- 学習ボランティアの活用

3 人材育成

- 重点授業
- ICTを活用した授業研修
- 若年教員研修の活用、授業改善研修
- サークル活動への参加奨励

4 危機管理

- 危機管理意識の想定・継続
- 登下校や体験の場の安全確保
- 報告・連絡・相談の日常化
- 不祥事防止研修・面談
- 安心安全な学習環境
・安全点検
・児童アンケート
・新型コロナウイルス対策
・熱中症対策
・食物アレルギー対策